

2019年5月19日 (Ver.2)

東京大学情報基盤センター
お試しアカウント付き並列プログラミング講習会
「OpenFOAM講習会の準備」

今野 雅 (Masashi IMANO)

(東京大学情報基盤センター客員研究員・株式会社OCAEL)

1 Windows OSでのインストールと動作確認

1. ParaViewのインストール

- (a) DownloadのWebページにおいて、Version v5.6とWindowsを選択し、ParaView-5.6.0-Windows-msvc2015-64bit.exe または .zip をダウンロードして、インストールし、ParaView の起動テストを行う。
- (b) 上記が動作しない場合には、他の近いバージョンを試してみる。

2. MobaXterm Home Edition(Portable edition)のインストール

- (a) MobaXterm Home EditionのDownloadのWebページから、Portable editionの最新版をダウンロードして解凍する。ここで、Installer editionでは無いことに注意。
- (b) 解凍したフォルダ内のMobaXterm_Personal_*.exeを実行する。
- (c) デスクトップに演習用のホームフォルダhomeを作成する。
- (d) ホームフォルダにShellセッションのファイルが残るように以下の設定を行う。
Settingsアイコン→Generalタブ→Persistent home folderにホームフォルダを設定。

3. 端末とXアプリケーションの起動テスト

- (a) Sessionアイコン→Shell(Local shell session)→OK.
- (b) Terminalのタブ上でxevを入力→Event testerのウィンドウが出現→ウィンドウを閉じる。
- (c) sshやrsyncを入力し、各々Usageが出力されることを確認する。

2 Mac OSでのインストールと動作確認

1. ParaViewのインストール

- (a) [DownloadのWebページ](#)において、Version v5.6とmacOSを選択し、ParaView-5.6.0-MPI-OSX10.8-64bit.dmg または .pkg をダウンロードして、インストールし、ParaView-5.6.0.app の起動テストを行う。
- (b) 上記が動作しない場合には、他の近いバージョンを試してみる。

2. 端末とX Window Systemアプリケーションの起動テスト

- (a) アプリケーション/ユーティリティ内のターミナル、または*iTerm2*など普段使用している端末を起動する。
- (b) 端末でxevを入力→Event testerのウィンドウが出現→ウィンドウを閉じる。
- (c) xev: command not foundなどのエラーが出る場合には、次のXQuartzをインストールして再度テストする。

3. XQuartzのインストール

- (a) [XQuartzのWebページ](#)から最新版をダウンロードして、インストールする。

3 Linux OSでのインストールと動作確認

1. ParaViewのインストール

- (a) [DownloadのWebページ](#)において、Version v5.6とLinuxを選択し、ParaView-5.6.0-MPI-Linux-64bit.tar.gz をダウンロードして展開し、bin ディレクトリ内にある paraview の起動テストを行う。
- (b) 上記が動作しない場合には、他の近いバージョンを試してみる。

2. X Window System アプリケーションの起動テスト

- (a) 端末で xev を入力→Event testerのウィンドウが出現→ウィンドウを閉じる。
- (b) xev: command not foundなどのエラーが出る場合には、X Window System をインストールして再度テストする。

4 端末でのSSH用鍵の作成と公開鍵の確認 (全OS共通)

SSH用鍵の作成(未作成, または, 演習用に既往の鍵と別の鍵を使用する場合のみ実行)

```
1 ssh-keygen -t rsa
```

```
1 Generating public/private rsa key pair.
```

```
2 Enter file in which to save the key ( ~/.ssh/id_rsa): # enterまたは任意の秘密鍵のパス名
```

```
3 Created directory '~/.ssh'. # 鍵のディレクトリが存在しない場合, 作成
```

```
4 Enter passphrase (empty for no passphrase): # パスフレーズを入力
```

```
5 Enter same passphrase again: # パスフレーズを再入力
```

```
6 Your identification has been saved in ~/.ssh/id_rsa.
```

```
7 Your public key has been saved in ~/.ssh/id_rsa.pub.
```

```
8 # 以下略
```

- [Oakforest-PACS利用支援ポータル](#)では, RSA, ECDSA256, ECDSA384, ECDSA521, Ed25519 の暗号化形式の公開鍵が登録できるが, ここではRSA形式の鍵の作成例を示す.
- 鍵の保存場所や名前は任意.
- パスフレーズは任意だが, 推測されにくい文字列にする. なお, 絶対に空文字にしないこと.
- 秘密鍵(上記の例では~/.ssh/id_rsa)があれば, 対応する公開鍵の置いてあるホストへログインできてしまうため, 管理には十分注意する.